



# 危険空き家の撤去は どうなった

小玉 勇 議員

## 12月7日業者が決まり 着工している

町 長

### 空き家の撤去始まる

3月に予算化した危険空き家の撤去費用561万円はとうなつた。(うち224万円は国の補助)  
町長 所有者との交渉と手続きに時間を要したが、ようやく登記の変更も完了し、12月7日入札を執行、解体工事の請負業者が決定した。工期は2月26日まで。  
地区の要望から10年以上を経て、ようやく撤去されるが、更地になった土地はどうするのか。



ようやく解体開始(来迎寺地区)  
【1/5山形新聞に関連記事掲載】

町長 地区の意見を聴きながら、具体的に協議を進め、検討していきたい。個人の後始末に公費を充てることは、いろいろ異議もあると思うが、今後の撤去計画はあるのか。  
町長 近隣への危険性や衛生面を考え、あと2件の予定があり、今後事業を進めていく。

### 豪雨災害

7月豪雨被害の復旧は進んだのか。  
町長 今宿「町道鷲ノ原



まだ通れません  
(県道大石田畑線・ワラ口入り口)

※「入札制度をどう改革したのか」の質問項目については、大山議員の一般質問(13頁)に掲載のため割愛します。

線)について応急的な復旧は8月28日に完了している。本復旧工事は令和3年度の早い時期の完成を目指している。  
家屋については41件の補助金等の申請があった。未だ完了していない家屋もあるが、暮らしている大きな影響はないものと考えている。  
農地は耕作放棄地にならないように対策を。  
町長 小規模災害復旧制度(県)を利用し、農地12箇所、農業施設15箇所計27箇所について、ほぼ復旧している。通常、県・町・個人それぞれ1/3ずつの負担割合になるが、今回は個人負担を少なくする。小平林道と県道大石田畑線の現状は。  
町長 小平林道の法面工事は来年度に繰り越しての工事となる見込み。また、県道大石田畑線(ワラ口地区)については、崩落の状況や地質の問題から、仮応急工事は困難と判断し11月16日工事着工し、今年度中の交通規制解除を目指している。県に対して迅速な対応に感謝している。



# 若者の移住定住、 今後の具体策は

二藤部 冬馬 議員

## 子育て世代向けの住宅建築を検討

町 長

### 若者への支援

町外流出、出生数の減少が進む中、若者や子育て世代の定住や移住を促すための、さらなる対策が必要。今後の具体策は。  
町長 「人口ビジョン」「地方創生総合戦略」の改定に着手している。結婚された夫婦に対して住居費を補助する「結婚新生活支援事業」の創設など、新しい施策も盛り込み、今年度中に策定していく。  
町長 「空き家バンクの活用」「住宅取得等への支援制度」に取り組んできた。転出超過については若干の改善が見られる。空き家の売却・購入はなかなか進まず、移住定住策の一手として考えるのは厳しいのでは。  
町長 経費をかけずに移住してもらおうには、空き家を活用してもらうことが一番いいと考える。コミュニティなど様々な部分で評価してもらえれば、策はできると考える。

### 住宅の現状と具体策

結婚を機に住宅を考える世帯や大石田に移住したい世帯もあるが、アパートの情報ほとんど見つからず、他市町村に流れてしまいうケースがある。まちづくり推進課長 民間のアパートに関しては、営業活動にあたるので、行政として介入するのは難しいと考える。舟形町・大蔵村等で行っている子育て支援住宅などの建築は。



大石田町にもほしい！子育て支援住宅(舟形町)

町長 町で保有している土地を活用し、子育て世代向け住宅建築を検討している。若者向けの間取り、除雪の解消、家賃設定など、先進地の事例を参考にしながら実現に向けて取り組んでいく。  
昨今の出生数の減少を見ると、5年後や10年後に先延ばしできない問題。支援住宅の建築はいつごろ実施予定か。  
町長 任期中には形にしたい。